

児童発達支援事業所における自己評価結果(公表)

公表: 令和5年3月31日

事業所名 littleデイズー

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	8		室内環境が明るく広く見えるよう窓から光を取り入れ、家具も安全に配慮した配置にしている。	
	2	職員の配置数は適切である	7	1	パート職員などは勤務体制を人数が必要な午後に固めるなどしている。	午後の送迎箇所が多い為、その時間のみ忙しくなるが、人員配置は適切である。また新規職員も採用できたので今後さらに改善していく見込みである。
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	8		合理的配慮のある表示や標語、身につけたいルールやマナーなどの絵カードを掲示している。エレベーターや手すりの設置をしている	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	8			
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	8		月に一度のミーティングは全員参加で、職員が意見しやすい雰囲気づくりを心掛けている	
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	8		頂いたアンケートで全員で共有し改善に向け話し合い改善を目指している。	
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	8			
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	7	1	定期的に事業所を訪問してもらっている専門家に、第三者委員を依頼し引き受けてもらった。	今後意見をもらい業務改善につなげていく。
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	8			
適切な支援の提供	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	8			
	11	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	8		県指定のえいぶるノートを活用している。	
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	8			
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	8			
	14	活動プログラムの立案をチームで行っている	8			
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	8		個別支援では、色々な活動プログラムを考え実践し、個々のレベルに合わせた内容にしたり飽きがこない様に工夫している。	
	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	7	1	集団が苦手だったり、個別が苦手だったり、個々によって本人の無理のない範囲からトライし苦手との向き合い方について支援している。	集団が苦手な子が多いので、集団活動を強化していきたい。

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	8		午前中の時間に昨日の伝達事項や打ち合わせを行う。	
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	7	1	翌日に話し合うか、いち早く周知したい事項については全体の連絡網でやりとりしている。	支援の振り返り、きまった職員でやりがちなので全体で周知できるよう気を付ける。
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	8		毎回必ず個別記録をとり、会議やモニタリングで活用している。	
	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	8		毎月の職務会にてモニタリングの時間を設けているので遅延なく行っている。計画についても意見を出し合っている。	
関係機関や保護者との連携関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	8		児発管に関わらず、対象児のことをよく理解している職員が出席している。	
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	8			
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている				
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている				
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	8		卒園、転園するタイミングで、自己紹介シートを作成し保護者への確認のもと、情報提供している。	
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	8		進学するタイミングで、自己紹介シートを作成し保護者への確認のもと、情報提供している。	
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	8		発達障がい者支援センターからの研修は毎回積極的に受けている。	研修を受ける職員に偏りがあるので、初級クラスの職能の職員も受けられるような研修があれば受けてもらうようにする。
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	3	5	ほぼ毎日行く公園で、近くの学童クラブや近所の同年代の児童と自然な形で関わりながら遊ぶ機会がある。	せっかくの機会なので、もっと顔見知りになり名前を呼び合って遊ぶくらい関わりを広がっていきたい。
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	3	5		参加する方法を探っていく。
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	8			
	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	5	3	事業所内相談や、お便りノートの活用、午前中の電話相談などを受け付けている。いつでも相談しやすい関係性作りに努めている。	これまでは事業所内相談を希望者に定期的に行って日頃の育児に関する相談を受け助言等行っていたが、今後はペアトレのプログラムも取り入れてみようと思う。
	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	8			
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	8			ガイドラインの内容について理解が曖昧な職員もいるので事業所内研修等で全体へ周知する必要がある。計画作成の場合は必ず同意を得ている。

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
保護者への説明責任等	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	8			
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	8		保護者を招待し保護者会やクリスマス発表会を実施し好評いただいたので継続する	
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	8		保護者からの相談は、面談だけでなく急な電話でも対応している。多くの方に好評頂いている。児童との関係性についても日頃から信頼関係作りを心掛けている	
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	7	1	月に一度の事業所だよりは、ひと月の活動内容を写真を多く載せて紹介している。	
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	8		個人ファイルは鍵付き書庫で保管、職員への誓約書や保護者に写真掲載の同意書へサインももらっている	
	39	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	8		話すのが苦手な子へハンドサインでやりとりしたり、特性のある保護者への文面でのやりとりなど、工夫している現状がある。	
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	2	6		近隣の事業者や自治会にハロウィン訪問を行ったので、今度はお礼に招待する形をとってみたい。
非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	8		マニュアル関係整備しまとめて全職員の目につくところに保管している。	
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	8			
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	8			
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	8			
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	8		事例集を作成し事案についても毎月のミーティングで報告する機会を設けている	
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	8		代表職員が県開催の研修を受け、それを全体へおろす形で事業所内研修を毎年行っている。	
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	8		身体拘束の該当児なし職員へも研修で周知している。	

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は事業所全体で行った自己評価です。